かいせいまち 歴史散歩 ⑲

ぶらりと歩きながら開成町の文化を発見、
再確認してみませんか。
開成町に残る遺蹟を紹介します。

瀬戸屋敷

瀬戸屋敷は、旧金井島村の名主の家で瀬戸家が代々守ってきました。名主は村の長で、仕事は多く大変でしたが、瀬戸家は江戸初期から明治五年に名主制度が廃止されるまで長い間つとめてきました。

敷地はおよそ千八百坪、主屋と土蔵、水車小屋や井戸小屋が点在し、屋敷林に囲まれ、水路が周囲をめぐる風格のあるたたずまいをみせています。

茅葺きの大きな屋根をもつ主屋は、宝永四（一七〇七）年の富士山噴火後の十八世紀前半に建てられたと推定されています。役人等を案内する式台と呼ばれる玄関も再現されています。いろりやかまども復原されていて、かつての農家の間取りは訪れる人々をなつかしさにさそいます。土蔵は千俵蔵ともいわれ、米や文書類、家財の保管に用いられました。

平成十三年に開成町の指定重要文化財第一号に指定されました。その後に瀬戸家から寄附をうけ、修復工事等を経て一般公開され、この五月で開園五周年を迎えました。

（文責　あしがり郷瀬戸屋敷　川澄　運）

※お子さんも読めるようにふりがなを付けています。

駐在所だより

110番は緊急電話です

110番は、事件・事故など、警察に緊急通報するための専用電話であり、緊急ではない相談事や問い合わせに110番を使用されると、事件・事故の際に110番がつながりにくくなってしまいます。

相談事やお問い合わせは、最寄りの警察署、交番・駐在所や、警察本部の総合相談電話、各種相談電話をご利用ください。

【神奈川県警察本部総合相談室】
☎045-664-9110（短縮ダイヤル　#9110）

○110番通報に際しての注意事項

・住所や目標物の確認を忘れずに

住所や目標物を確認せずに、110番をする方がほとんどです。事件や事故の現場に、一刻も早くパトカーなどが到着できるよう、必ず確認しましょう。

・運転しながらの110番は危険です

乗用車などを運転中の場合は、安全な場所に止めてから110番をかけましょう。

・移動しながらの通報はやめましょう

通話が途切れたり、現場に向かったパトカーなどの警察官が会えなくなってしまいます。やむを得ない場合を除き、立ち止まって110番をしてください。

・電源は切らないでください

折り返し、110番センターや警察署からお電話をかける場合がありますので、携帯電話などの電源は切らないでください。

松田警察署
延沢駐在所
☎83-5434
吉田島駐在所
☎83-5457

図書室だより

町民センター3階

【開室時間】火～金曜日　10:00～20:30
土・日曜日　10:00～17:00
【休 室 日】毎週月曜日

2010 国民読書年

※貸し出し冊数は４冊まで、期限は２週間です

今月のこの１冊

自然科学30のなぜ？どうして？

国立科学博物館　編著

国立科学博物館は、上野公園の中にあるわが国唯一の総合科学博物館である。所蔵している標本資料は、現在380万点を超えている。

本書では、その中から30点を選び担当した研究者が解説している。常設展示の絶滅したニホンオオカミや上野動物園の人気者パンダの剥製は動物研究部、アポロ11号が採取した月の石は理工学研究部、フタバスズキリュウの発見にまつわる話は地学研究部が語っている。

新しく購入した図書（主なもの）

★ 一 般 書 ★

・「ブルー・ゴールド」　真保裕一
・「寝ても覚めても」　柴崎友香
・「あいさつは一仕事」　丸谷才一
・「黙禱の時間」　ジークフリート・レンツ
・「できれば機嫌よく生きたい」　岸本葉子
・「明日の風」　梁石日
・「空想オルガン」　初野晴

★ 児 童 書 ★

・「100ｋｍ！」　片川優子
・「はれときどきあまのじゃく」　矢玉四郎
・「あくたれラルフのたんじょうび」　ニコール・ルーベル
・「だいじょうぶ３組」　乙武洋匡
・「しあわせのこおろぎ」　わたなべゆうか

みんな集まれ！子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場

内　容　「落下傘をつくります」
持ち物　ハサミ　サインペン
日　時　11月27日(土)10：00～
場　所　町民センター２階　小会議室Ａ
申し込みは直接図書室へ　又は、☎82－5221

◇おはなし会（第２土曜日、第３水曜日）

日　時　11月13日(土)10：30～
11月17日(水)15：00～
場　所　町民センター３階図書室
申し込みはいりません

＊文　芸

九月詠

短歌

ともしび短歌会

皆睡の夫と時を刻みゐし
その時計となり放せずに持つ
吉田　志麻

一つの時計にも深い意味合い・縁があり、記憶やモノの存在は、愛する人の持ち物・形見にその価値を見出す。この短歌は、正にそのことを物語っており、ご夫妻の絆が如何に強いかを感じさせる。

糸蜻蛉ちからつきたか炎天の
道に横たはる―束の間の景
湊　きみ子

どれ程飛来したのであろうか、糸蜻蛉は、炎天下の道路に翅を休めた。その直後に力尽きてしまった。カメラでの連写の如く様子を目撃していた作者の、冷静で鋭い観察力がこの一首を生み出した。

電柱の悲喜鳴くセミに思ひ馳す
夫逝きし日のあの暑き日を
杉本　シズ子

この作品の視点の良さは、〈悲喜〉と〈あの〉の両句にある。家の傍の電柱で鳴く蝉の独特な声を聞くと、ご主人のご命日は猛暑日だったことが髣髴させられる、としみじみとした思いを詠んだ歌。
近藤　正臣　選

俳句

新米のおむすび眩し野の昼餉
遠藤　シズ子

今年は異常気象の影響か例年通りの稲刈りができない。収穫もずっと減りそう。が、新米のあの眩しさ、かがやき。野の昼餉が楽しみ。

開成町俳句協会

芋の露風に吹かれてころげ落つ　遠藤　マツエ
新米を結びて母の味しのぶ　高野　宗脩
新米や兄を労う農繁期　下澤　操子
新米の味と香りが馳走なり　山本　喜美子

芝田　みち子　選

我が家のペット紹介 No. 75

佐藤きんた君
ビーグル　２才（上島）

やんちゃなぼくです

ペットのふんは飼い主さんが責任を持って持ち帰りましょう！

ご自宅のペットを紹介しませんか？
募集中です。詳しくは自治活動応援課まで。
☎ 84-0315